

ProcureMART™

RosettaNet HTTPClient

インストールマニュアル

V1.3.2

(Windows XP の例)

目次

1. ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient の構成.....	2
2. 準備	3
3. ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient 解凍	4
4. Java JRE のセットアップ (Java Runtime Environment - Standard Edition)	5
5. Log4j のセットアップ	10
6. ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient のインストール.....	12
7. コピーしたライブラリの確認	15
8. コンフィグレーションファイルの編集	17
9. log4j プロパティファイルの編集	19
10. インストールのチェック	20
11. 付録 A: 図のリスト	24
12. 付録 B: ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient セットアップ情報	25

1. ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient の構成

ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient を使用するためには、いくつかの JAVA のライブラリが必要です。ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient で必要な構成は図 1 のようになっています。本マニュアルでは、各ライブラリのインストール方法から段階的に説明します。ただし、OS (Windows XP 等) のインストールが実施済であることが条件です。

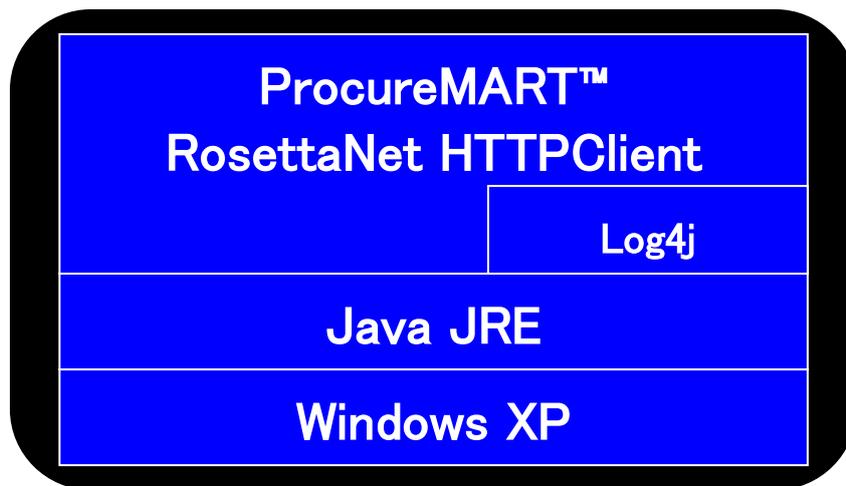


図 1 ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient システム構成図

2. 準備

必要なもの

ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient をインストールするためには、以下のものがが必要です。

- ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient の配布物 (RNHTTPClient_V.1.3.2.zip)
※RNHTTPClient_V.1.3.2.zip は
URL : <http://www.procuremart.net/httpclient/httpclient.html>
より入手可能です。
- Log4j (jakarta-log4j-1.1.3.zip)
※log4j は URL : <http://archive.apache.org/dist/logging/log4j/1.1.3/>
より入手可能です。

インストール開始前に、付録 B にある必要な情報を書き込んで下さい。

3. ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient 解凍

ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient は、Zip 形式で配布されますので、まず最初に配布物を解凍します。解凍後作成されたファイルはシステムのどこにでも配置でき、そのファイルサイズは約 17MB 程度になります。

上記で解凍し作成されたフォルダを、本マニュアルでは<ExtractedDirectory>と呼びます。

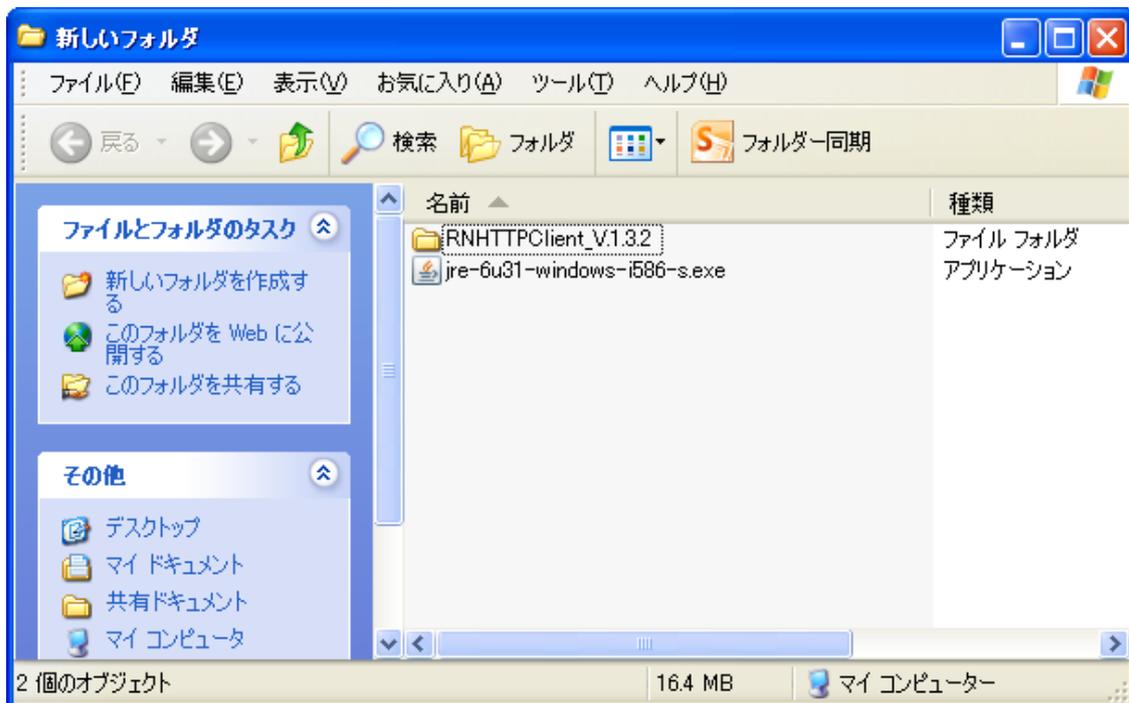
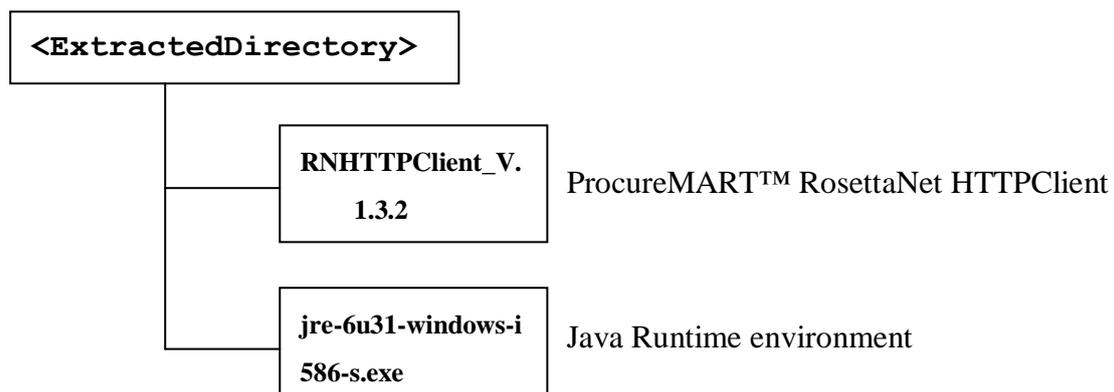


図 2 <ExtractedDirectory>の中のフォルダ

4. Java JRE のセットアップ

(Java Runtime Environment - Standard Edition)

既に、インストールするマシンに、JRE1.5以上の環境が存在する場合、本作業は必要ありません。しかし、ほとんどのWindowsマシンは、JAVAの環境を持たないので、この作業をする必要があります。尚、本マニュアルではJRE1.6のインストール例を記載致します。

JREは、配布物から解凍した下記フォルダにあります。

<ExtractedDirectory>\jre-6u31-windows-i586-s.exe

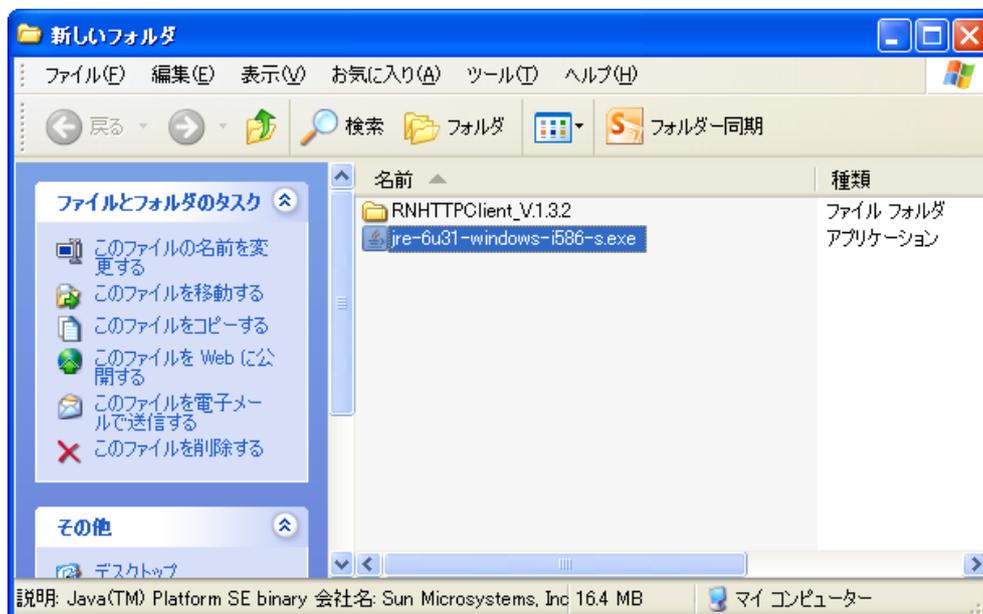


図 3 Java Runtime Environment セットアッププログラム

尚、配布物のJREは32bit版になりますので、64bit OS (windows 2008 R2等)を使用している場合は別途以下のURLからJREを入手してください。

URL : <http://java.com/ja/download/>

4.1 JRE のインストール

インストールフォルダは、システムのどこに置いても構いません。デフォルトは以下の場所となります。

C:\Program Files\Java\jre6

しかし、スペースを間にはさむフォルダパスは、バッチスクリプトへの組み込みや、タスクマネージャ等を使用する場合トラブルの元となりますので、以下のフォルダに変更することをお奨めします。

C:\JRE1.6

本ドキュメントでは、JRE のインストールフォルダを “<JavaHome>” と記述します。インストールの手続きを、段階的に図で説明します。尚、本マニュアルでは JRE1.6 のインストール例を記載致します。



図 4 Software license の契約文

JRE のライセンス契約文を確認し、インストールを開始するならば「インストール」をクリックして下さい。インストールフォルダを変更する場合は「インストール先のフォルダを変更する」をチェックし、任意のフォルダを指定して下さい。

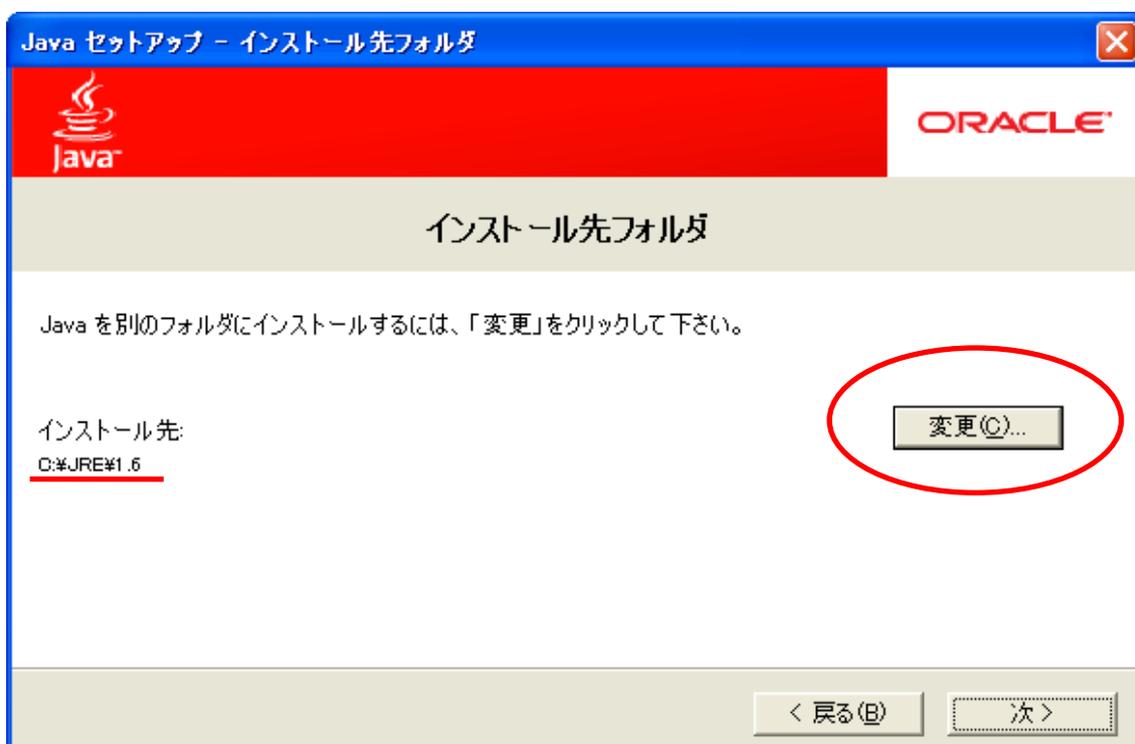


図 5 インストールフォルダの選択

JRE のセットアッププログラムは、以下のフォルダをデフォルトとします。

C:\Program Files\Java\jre6

トラブル防止のため、パスの中のスペースは避け、以下のフォルダに変更します。

C:\JRE\1.6

「変更」を押して、インストール先のフォルダを変更し、「次 >」を選択します。



図 6 インストール完了

以上で JRE のインストールは完了になります。

4.2 重要ファイル

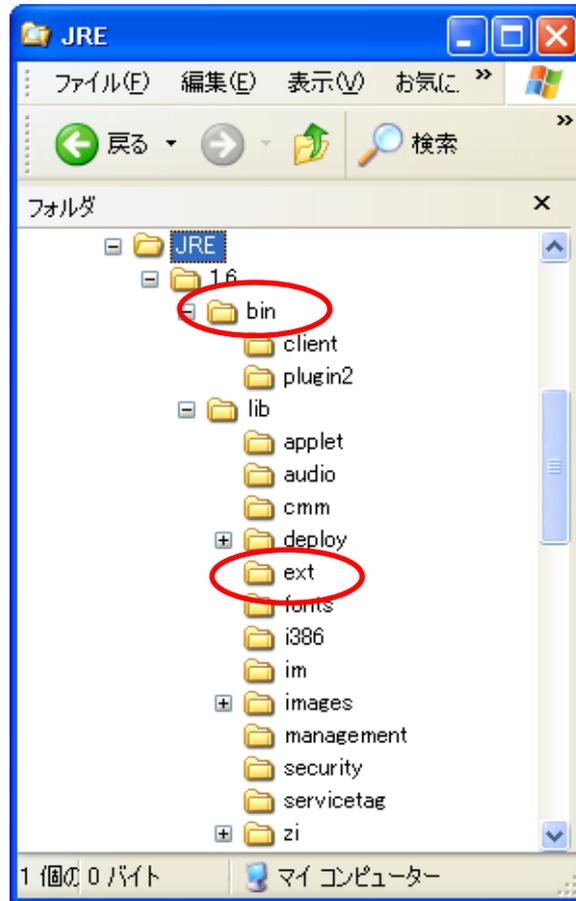


図 7 JRE インストールフォルダ (<JavaHome>)

図 7 は JRE インストール後のフォルダです。これらは、重要なファイルとフォルダです。その中でも以下の二つは、最も重要なファイルです。

<JavaHome>\¥bin¥java.exe

これは `java virtual machine` です。ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient はコマンドで起動します。

<JavaHome>\¥bin¥java RNHTTPClient [options…]

<JavaHome>\¥lib¥ext¥

これは JAVA ライブラリが格納されるフォルダです。インストールのあとに*.jar ファイルがここにコピーされます。

5. Log4j のセットアップ

5.1 パッケージの解凍

下記の URL より「jakarta-log4j-1.1.3.zip」をダウンロードします。

URL : <http://archive.apache.org/dist/logging/log4j/1.1.3/>

Log4j は Zip 形式で配布されています。最初に Log4j を解凍してください。

解凍はどんなフォルダにも出来ます。そのフォルダはインストール後には必要が無くなりますので、削除しても構いません。



図 8 Log4j フォルダ

5.2 ライブラリのインストール

Log4j ライブラリは<jakarta-log4j-1.1.3>%dist%lib%にあります。 (図 9)

これら 2 ファイルを以下にコピーして下さい。

<JavaHome>%lib%ext

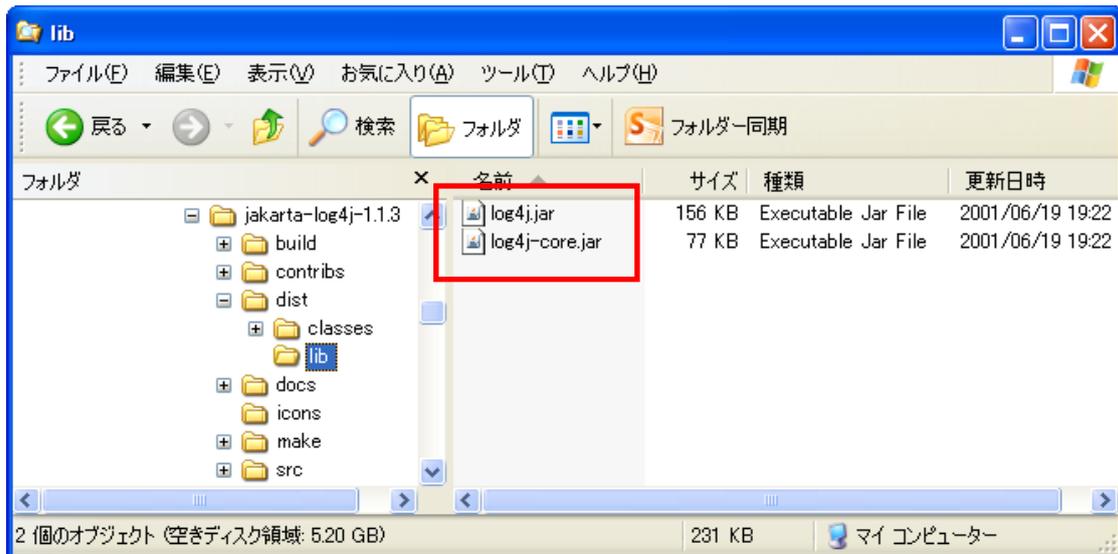


図 9 <jakarta-log4j-1.1.3>%dist%lib%の中の Log4j

6. ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient のインストール

ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient は<ExtractedDirectory>\RNHTTPClient_V.1.3.2 にあります。この RNHTTPClient_V.1.3.2 フォルダをインストールするフォルダへコピーしてください。

例)

C:\RNHTTPClient_V.1.3.2

このフォルダを、本ドキュメントでは<BASEDIR>と呼ぶ事にします。

ログファイル、EDI データファイル、そして EDI データバックアップファイルは <BASEDIR>の中に作成されます。したがって、インストールフォルダは十分なディスク容量が必須です。

ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient にて複数のログイン ID を扱う場合には、各 ID に対応した ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient を異なったフォルダにインストールする必要があります。

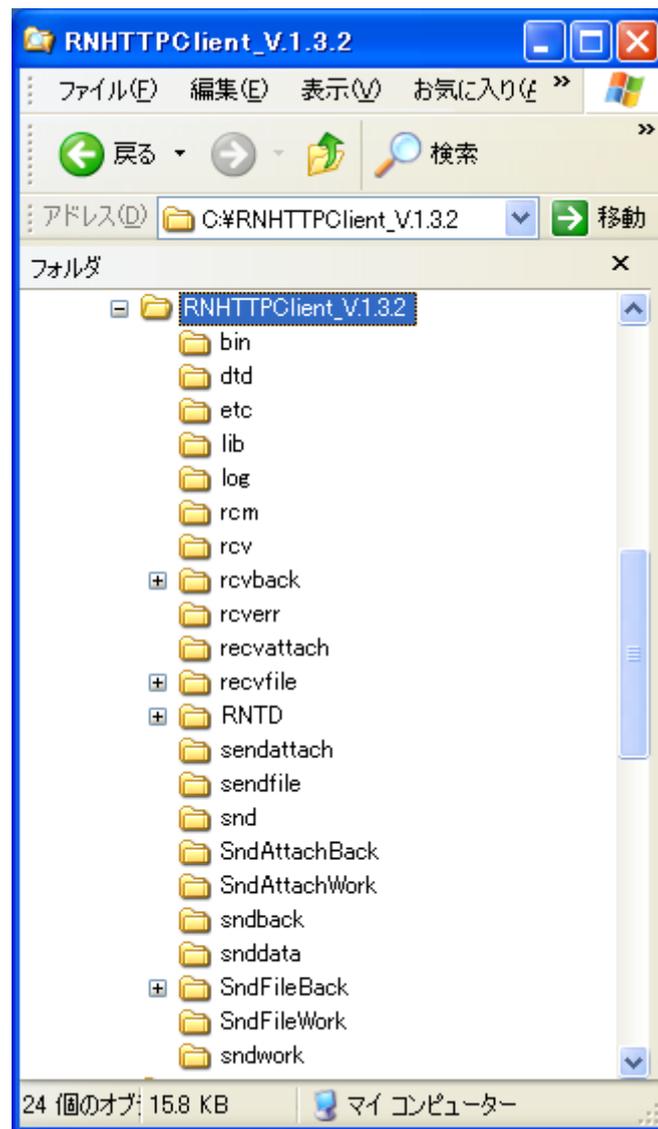


図 10 RNHTTPClient_V.1.3.2 <BASEDIR>

問題なくコピーされた後のフォルダは図 10 のようになります。

6.1 ライブラリのインストール

最後に、<BASEDIR>%lib 配下にある jar ファイルを、他のライブラリのように <JavaHome>%ext%lib にコピーして下さい。

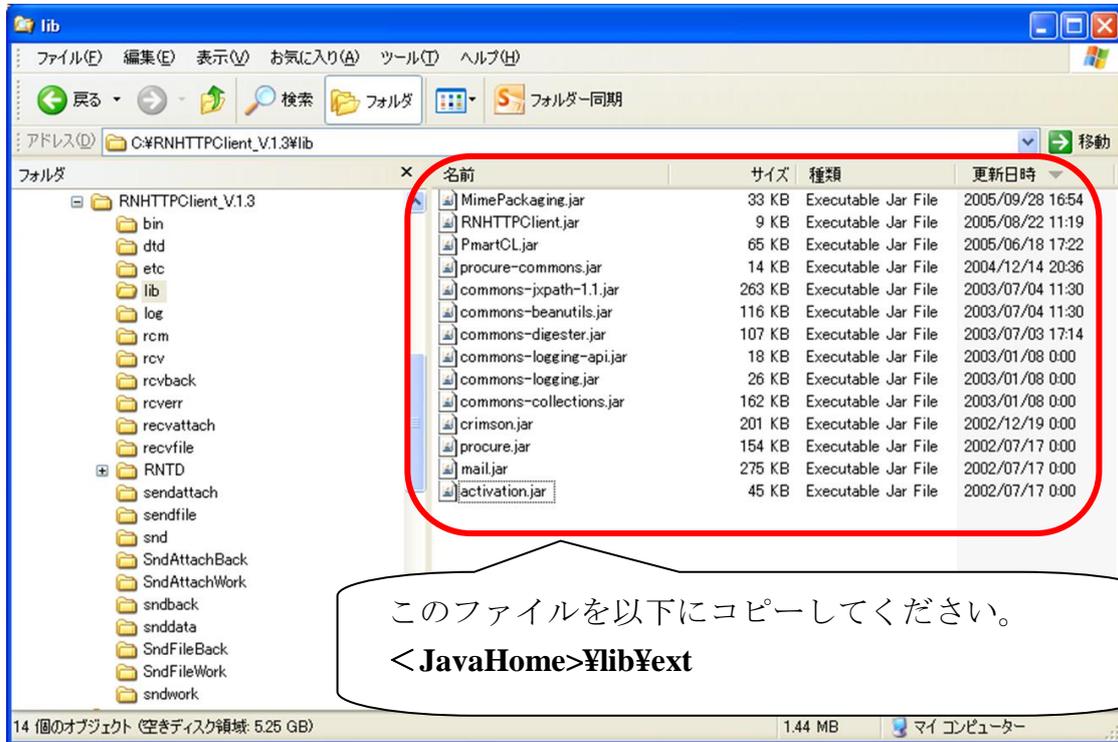


図 11 <BASEDIR>%lib 中の ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient ライブラリファイル

7. コピーしたライブラリの確認

この時点でライブラリのセットアップは終わっています。〈JavaHome〉¥lib¥ext¥にはコピーした 16 個の Jar ファイルがあるはずですので、エクスプローラーですべてのファイルがあるかチェックして下さい。図 12 はエクスプローラーで見た〈JavaHome〉¥lib¥ext フォルダを表示しています。

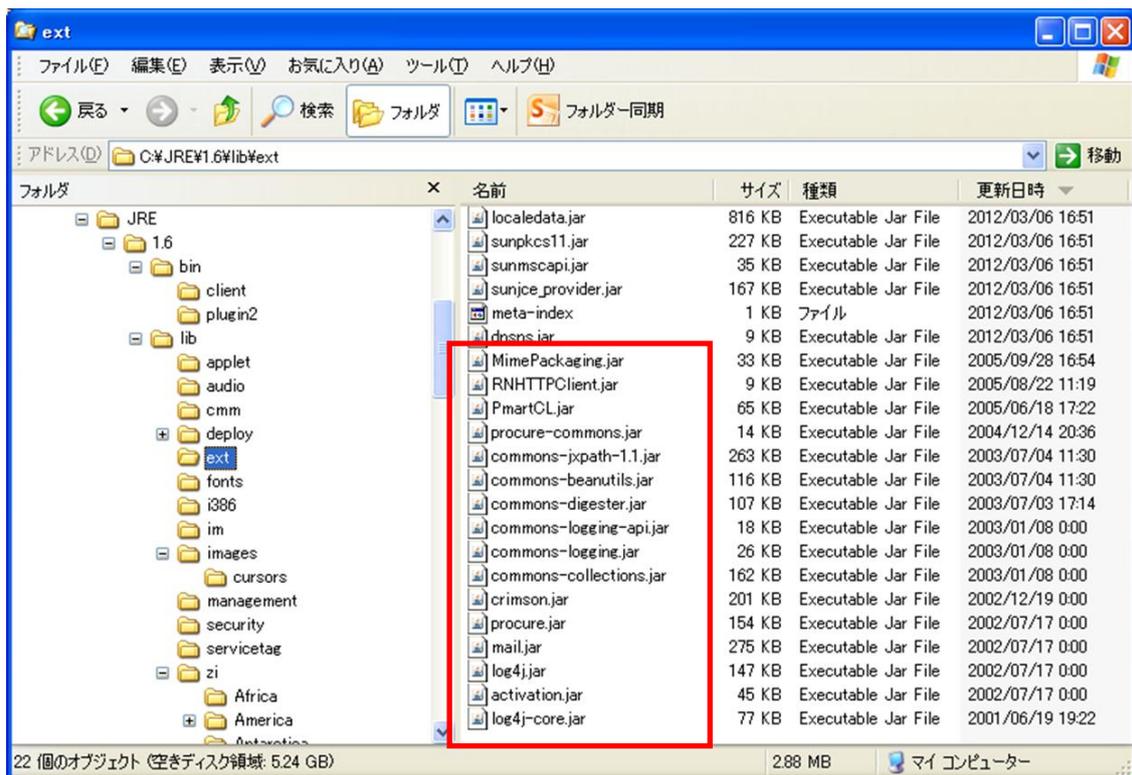


図 12 〈JavaHome〉¥lib¥ext フォルダ

表1は、<JavaHome>\lib\ext フォルダにあるはずのファイルのリストです。この表ですべてのファイルがインストールされているかどうか、チェックしてください。

Package	File name	File size ¹ (bytes)	Check
Log4j	log4j.jar	158,892	
	log4-core.jar	78,140	
ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient	MimePackaging.jar	32,969	
	RNHTTPClient.jar	8,755	
	PmartCL.jar	65,669	
	procure-commons.jar	13,414	
	commons-jxpath-1.1.jar	268,794	
	commons-beanutils.jar	118,726	
	commons-digester.jar	109,096	
	commons-logging-api.jar	18,404	
	commons-logging.jar	26,388	
	commons-collections.jar	165,119	
	crimson.jar	205,045	
	procure.jar	157,254	
	mail.jar	280,984	
activation.jar	45,386		

表1 <JavaHome>\lib\ext directory 中のファイル

8. コンフィグレーションファイルの編集

コンフィグレーションファイルは、**<BASEDIR>%etc** にあります。このファイルはサーバー名、ユーザーID、パスワード、プロキシ設定、そして他の重要なパラメーターを指定します。このファイルは ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient プログラムのコマンド引数として起動時に絶対パスで指定するので、**<BASEDIR>%etc** フォルダに格納されていれば任意のファイル名をつけることができます。

インストール時にサンプルコンフィグレーションファイルとして以下のファイルがあります。

<BASEDIR>%etc%config.txt

このファイルを編集することが ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient を設定する最も簡単な方法です。以降は、コンフィグレーションファイル名として、**<BASEDIR>%etc%config.txt** を使用します。

以下にサンプルコンフィグレーションファイルを示します(このファイルは変更無しでは動作しません)。

```
#
# ProcureMART RosettaNet HTTPClient Config File
#
BASEURI=https://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/
USERID=XXXXX
PASSWD=XXXXX
HOST=filetrans.procuremart.ne.jp
PORT=443
#PROXYHOST=xxx.fujitsu.com
#PROXYPORT=8080
TIMEOUT=5
RETRY=2
RETRYTIME=10
BASEDIR=C:%RNHTTPClient_V.1.3.2
DATATYPE=0

SENDFILE=C:%RNHTTPClient_V.1.3.2%sendfile
SENDATTACH=C:%RNHTTPClient_V.1.3.2%sendattach
RECVFILE=C:%RNHTTPClient_V.1.3.2%recvfile
RECVATTACH=C:%RNHTTPClient_V.1.3.2%recvattach
```

先頭に“#”がついている行はコメント行です。

レコード形式は**<Key> = <Value>**です。

PROXYHOST そして **PROXYPORT** 以外は必須です。直接 ProcureMART™サーバーに接続できる環境であれば、**PROXYHOST** と **PROXYPORT** を指定する必要はありません。Proxy 経由で ProcureMART™サーバと接続する環境であれば、Proxy サーバ名を **PROXYHOST** に、Proxy のポート番号を **PROXYPORT** に設定してください。

その後、[付録 B: ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient セットアップ情報] に従って、このファイルを編集してください。

9. log4j プロパティファイルの編集

Log4j プロパティファイルは<BASEDIR>\etc にあります。ファイル名は

<BASEDIR>\etc\¥PmartClient.properties です。

このファイルは“txt” 拡張子を持っていませんが、簡単な txt ファイルです。

メモ帳などのテキストエディタを用いて、表 2 の 3 行目の<BASEDIR>の箇所を編集してください。（インストール時は C:\¥RNHTTPClient_V.1.3.2¥¥log¥¥PmartClient.log となっています。）

1	<i>log4j.rootCategory=DEBUG, R</i>
2	<i>log4j.appender.R=org.apache.log4j.RollingFileAppender</i>
3	<i>log4j.appender.R.File=<BASEDIR>\¥¥log¥¥PmartClient.log</i>
4	<i>log4j.appender.R.layout=org.apache.log4j.PatternLayout</i>
5	<i>log4j.appender.R.layout.ConversionPattern=%d %m%n</i>

表 2 “PmartClients.properties” に選択されたアイテム

以下がレコード形式です。

<KEY> = <Value>

‘#’ から始まる行はコメント行です。

注意:

log4j コンフィグレーションファイル中のパス区切り文字は ‘¥¥’（ダブルバックスラッシュ）にする必要があります。

インストール時の内容を以下に示します。

```
# PmartClient.properties
#log4j.rootCategory=DEBUG, stdout, R
log4j.rootCategory=DEBUG, R

#log4j.appender.stdout=org.apache.log4j.FileAppender
#log4j.appender.stdout.File=/var/log/syslog
#log4j.appender.stdout.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
#log4j.appender.stdout.layout.ConversionPattern=[%t] %-5p (%F:%L) - %m%n

log4j.appender.R=org.apache.log4j.RollingFileAppender
log4j.appender.R.File=C:\¥RNHTTPClient_V.1.3.2¥¥log¥¥PmartClient.log
log4j.appender.R.layout=org.apache.log4j.PatternLayout
log4j.appender.R.layout.ConversionPattern=%d %m%n
```

10. インストールのチェック

“コマンド プロンプト” からコマンドを入力する事によってインストールが完了していることをチェックします。“コマンド プロンプト”は「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」で見つかります。

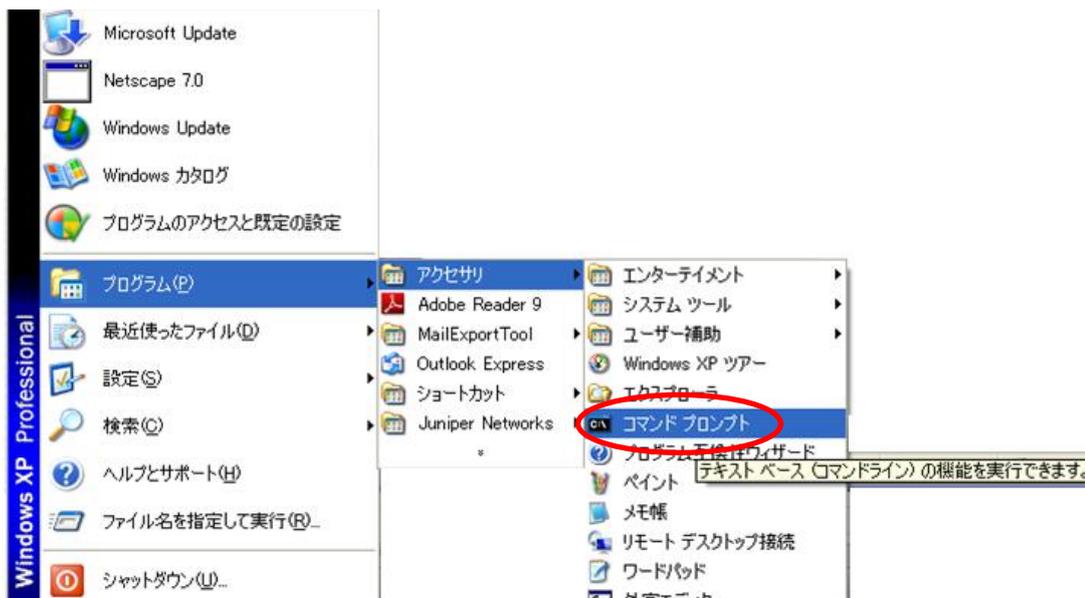


図 13 スタートメニューのコマンドプロンプト

10.1 Java Runtime Environment の確認

JRE のインストールされたフォルダで、以下のコマンドを入力して下さい。

```
<JavaHome>%bin%java -version
```

もし、適切に JRE がインストールされたなら、このコマンドは JRE のバージョンを表示します。表示されたバージョンとインストールしたバージョンをチェックして下さい。

実行例は以下のようになります。

```
C:>C:\JRE1.6\bin\java -version
java version "1.6.0_31"
Java(TM) SE Runtime Environment (build 1.6.0_31-b05)
Java HotSpot(TM) Client VM (build 20.6-b01, mixed mode, sharing)
```

実行例 JRE バージョンの確認

上記のように表示されない場合、以下の可能性があります。

コマンドのタイプミス

コマンドのパスが正しいか、もう一度チェックして下さい。

JREの前バージョンと矛盾があります。

もし、JDK または JRE が既にインストールされているなら、CLASSPATH 環境変数が矛盾しているのかも知れません。RNHTTPClient_V.1.3.2 は CLASSPATH をセットする必要はありませんので、以下のコマンドでチェックして下さい。

```
set CLASSPATH
```

以下の例は、正しい実行結果例です。

```
C:\>set CLASSPATH
Environment variable CLASSPATH not defined
```

10.2 RosettaNet ライブラリの確認

以下のコマンドを打つと、ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient の使用方法とバージョンを表示します。

```
<JavaHome>%bin%java RNHTTPClient
```

もし、ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient が適切にインストールされると、このコマンドは以下の様なバージョンを表示します。

```
C:>C:\jdk1.6\bin\java RNHTTPClient
ProcureMART RosettaNet HTTPClient version1.3.2 2006-03-31
Usage:java RNHTTPClient config snd | rcv fileid
       java RNHTTPClient config rcm fileid sequence_no
```

実行例 ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient ライブラリの確認

もし、正しく動作しなかったら、以下を確認してください。

- PmartCL.jar が<JavaHome>%lib%ext に格納されているかどうか。
- Java コマンドが、<JavaHome>%bin%java.exe であるかどうか。
PATH 環境変数が他の Java 環境を指定している可能性がありますので、PATH 環境変数を修正してください。

10.3 log4j ライブラリの確認

log4j ライブラリの確認として、意図的にエラーを発生させ、ログを出力させます。この例では、存在しないファイル NEVERUSE を送信しようとして、エラーを発生させています。エラーメッセージは log4j プロパティファイルで指定されるログファイルに格納されます。

```
<JavaHome>%bin%java.exe RNHTTPClient configfile snd NEVERUSE
```

configfile はコンフィグレーションファイルの絶対パスです。

実行例は以下のようになります。

```
C:>C:\JRE1.6\bin\java.exe RNHTTPClient C:\RNHTTPClient_V.1.3.2\etc\config.txt snd
NEVERUSE
(I00002) INFO:Send File no exist
```

実行例 エラーサンプル

次のログファイルを確認してください。もしLog4jが適切に動いているのなら、以下の様なメッセージが出力されています。

```
2001-08-13 00:35:53,409 [trc] NEVERUSE null (I00002) INFO:Send File no exist
```

ログをみるためには、普通にテキストエディタで見る方法のほかに、ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient で表示する方法があります。以下のコマンドでログファイルのエラー記録を画面に表示します。

```
<JavaHome>%bin%java LogExtract configfile trc
```

```
C:>C:\JRE\1.6\bin%java LogExtract C:\RNHTTPClient_V.1.3.2\etc%config.txt trc
start...
2001-08-13 03:36:40,938 [trc] NEVERUSE null (I00002) INFO:Send File no exist
(I00006) INFO: ProcureMART LogExtract Normal End
```

実行例 ログディスプレイ

11. 付録 A: 図のリスト

図 1	ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient システム構成図.....	2
図 2	<ExtractedDirectory>の中のフォルダ.....	4
図 3	Java Runtime Environment セットアッププログラム.....	5
図 4	Software license の契約文.....	6
図 5	インストールフォルダの選択.....	7
図 6	インストール完了.....	8
図 7	JRE インストールフォルダ (<JavaHome>).....	9
図 8	Log4j フォルダ.....	10
図 9	<jakarta-log4j-1.1.3>¥dist¥lib¥の中の Log4j.....	11
図 10	RNHTTPClient_V.1.3.2 <BASEDIR>.....	13
図 11	<BASEDIR>¥lib¥の中の ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient ライ ブラリファイル.....	14
図 12	<JavaHome>¥lib¥ext フォルダ.....	15
図 13	スタートメニューのコマンドプロンプト.....	20

12. 付録 B: ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient セットアップ情報

12.1 Java Runtime Environment

1	Version	Java version 1.6.0_31	
	<JavaHome>	Sample	C:\jre1.6

12.2 ProcureMART™ RosettaNet HTTPClient インストールフォルダ

2	<BASEDIR>	Sample	C:\RNHTTPClient_V.1.3.2

12.3 コンフィグレーションファイル

3	File path	Sample	<BASEDIR>\etc\<ANYKINDOFNAME>
			C:\RNHTTPClient_V.1.3.2\etc\config.txt
4	BASEURI	https://filetrans.procuremart.ne.jp/servlet/	
5	USERID		
6	PASSWD		
7	HOST	filetrans.procuremart.ne.jp	
8	PORT ⁱ	443	
9	PROXYHOST ⁱⁱ		
10	PROXYPORT		

11	TIMEOUT	5
12	RETRY	2
13	RETRYTIME ⁱⁱⁱ	10
14	BASEDIR ^{iv, v}	C:\¥¥ RNHTTPClient_V.1.3.2
15	DATATYPE ^{vi}	0

12.4 Log プロパティファイル

16	Property file	Sample	<BASEDIR>\¥etc¥PmartClient.properties
17	Log file	Sample	<BASEDIR>\¥log¥PmartClient.log

12.5 ファイルタイプ

Data Type	File Type(8byte fixed)
Purchase Order	

- i. (443)はHTTPSのためにあり、(80)はHTTPのためにあります。
- ii. ご利用のネットワークでプロキシサーバを利用している場合、そのURLを設定して下さい。
- iii. 再試行時間は10分以上を設定して下さい。
- iv. 終わりに分離符を加えないで下さい。余分な分離符があるならば、RosettaNet HTTPClientはコンフィグレーションファイルを読むことができません。Windowsに関しては、ファイル分離文字は‘¥’や‘¥¥’です。
- v. このBASEDIRはField No.2 <BASEDIR>と同じであるべきである。
- vi. (0)指定されると、データは現状通り送られます。これはデフォルト設定です。